

たかやま共創ミーティング（第3弾）
高山祭を維持するための持続可能なまちづくり

日時：6月15日（木） 場所：飛騨高山まちの博物館研修室

【チーム：寄り合い】

○担い手不足について

★祭礼地区の人口減少により人手不足が顕著になってきている。

⇒祭礼区域に住んでくれる人を増やす取り組みを行う必要がある。

- ・地域づくり
- ・祭に参加したいと思っている人と担い手不足になっている部分とをうまくマッチングさせる仕組みづくり

★高山祭をよく知らないため、興味を持ってもらえず担い手不足になっている。

⇒学校や地域との協力、祭りに参加してもらおう条件の明確化や仕組みづくりを行う必要がある。

- ・祭行事の中で、どの部分の担い手になってもらいたいのかをはっきりさせる。（屋台の曳き手、獅子舞、鉦、浦安、采女など）
- ・担い手の継続的な育成を行える仕組みづくり（笛、獅子舞など）
- ・祭礼区域以外の子供たちが祭に参加できる仕組みづくり
- ・三味線、笛などの市内にある文化団体に祭に参加してもらおう

○資金不足について

⇒行政、企業、市民、観光客を含めた金銭的に高山祭を支える仕組みづくりを行う必要がある

- ・しょうり作戦（ポチ袋を作成し寄付をしてもらう）など

○情報発信について

⇒高山祭に関わっている人の声を広く届ける必要がある（良い面も、悪い面も）

- ・SNSなどを利用し広く情報発信をする（やりがいや苦勞など）

【チーム：仙人台】

○祭に対する意識について

★高山市民の中でも祭礼地区とそれ以外の地区では、高山祭に対する意識に差がある。

⇒高山祭に対する意識の差を無くすことや、それぞれの立場での意識を変えていくことが必要。

○担い手不足について

★高山祭をよく知らないため、興味を持ってもらえず担い手不足になっている。

★担い手不足を解消するための仕組みづくりがされていない。

⇒行政、学校、企業など市全体で協力をしていく必要がある。

①行政：人材派遣の仕組みづくり

祭礼地区へ人が集まるような仕組みづくり

市職員による祭礼時の屋台組への派遣などの体制づくり

②学校：郷土学習で高山祭や高山市の歴史について学ぶ機会を増やす。

土曜講座等で祭について学ぶことができる講座を開講

③企業：高山市内の企業から担い手を出してもらえるような仕組みづくり（特に観光関係の企業など）

○情報発信について

★高山祭の情報が普通に生活しているだけでは、入ってこない。

⇒自然と目に入るような情報発信の方法を考えていく必要がある。

- ・広報高山での特集を行う
- ・現在あるHPの充実化